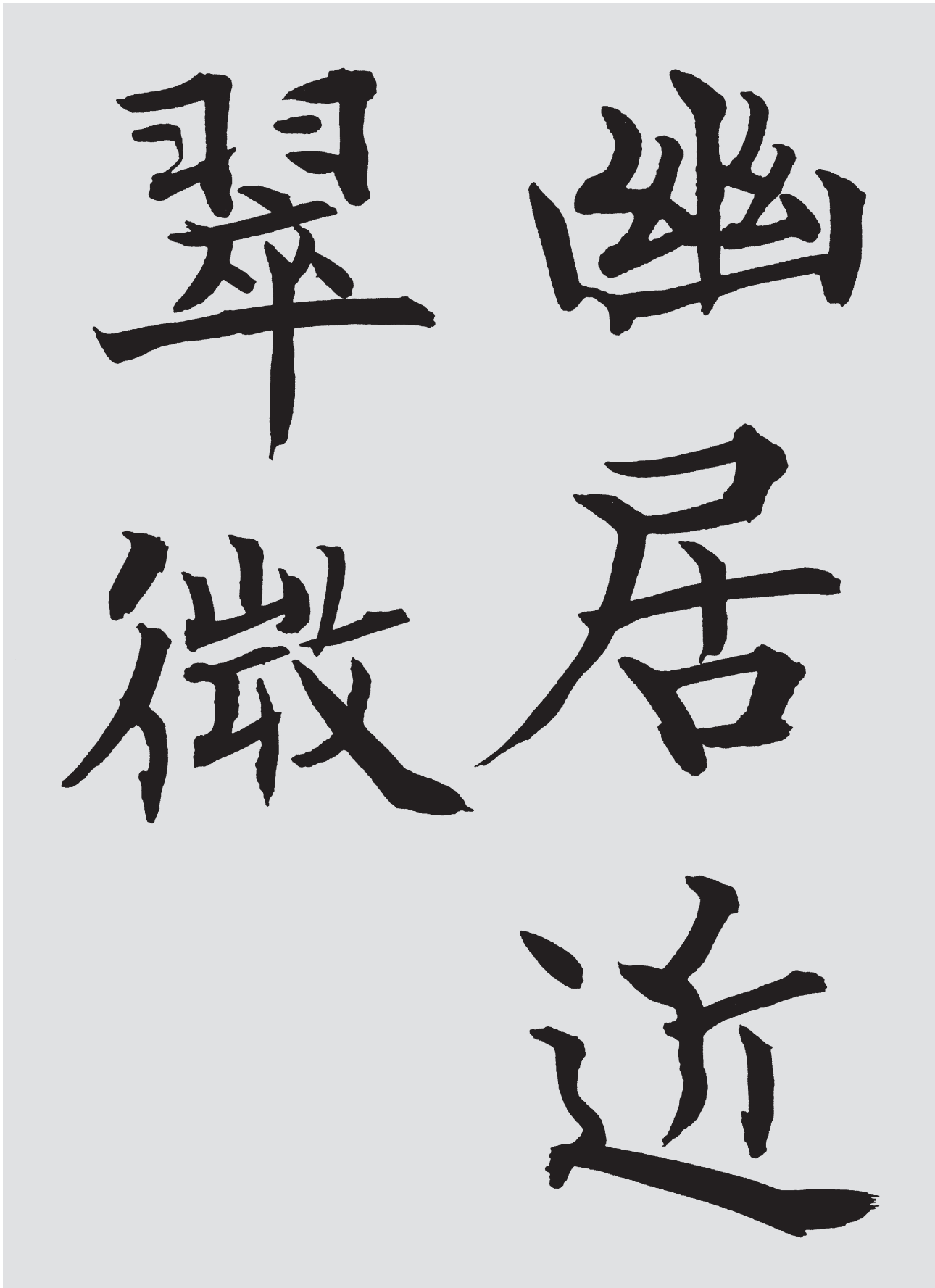


参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。

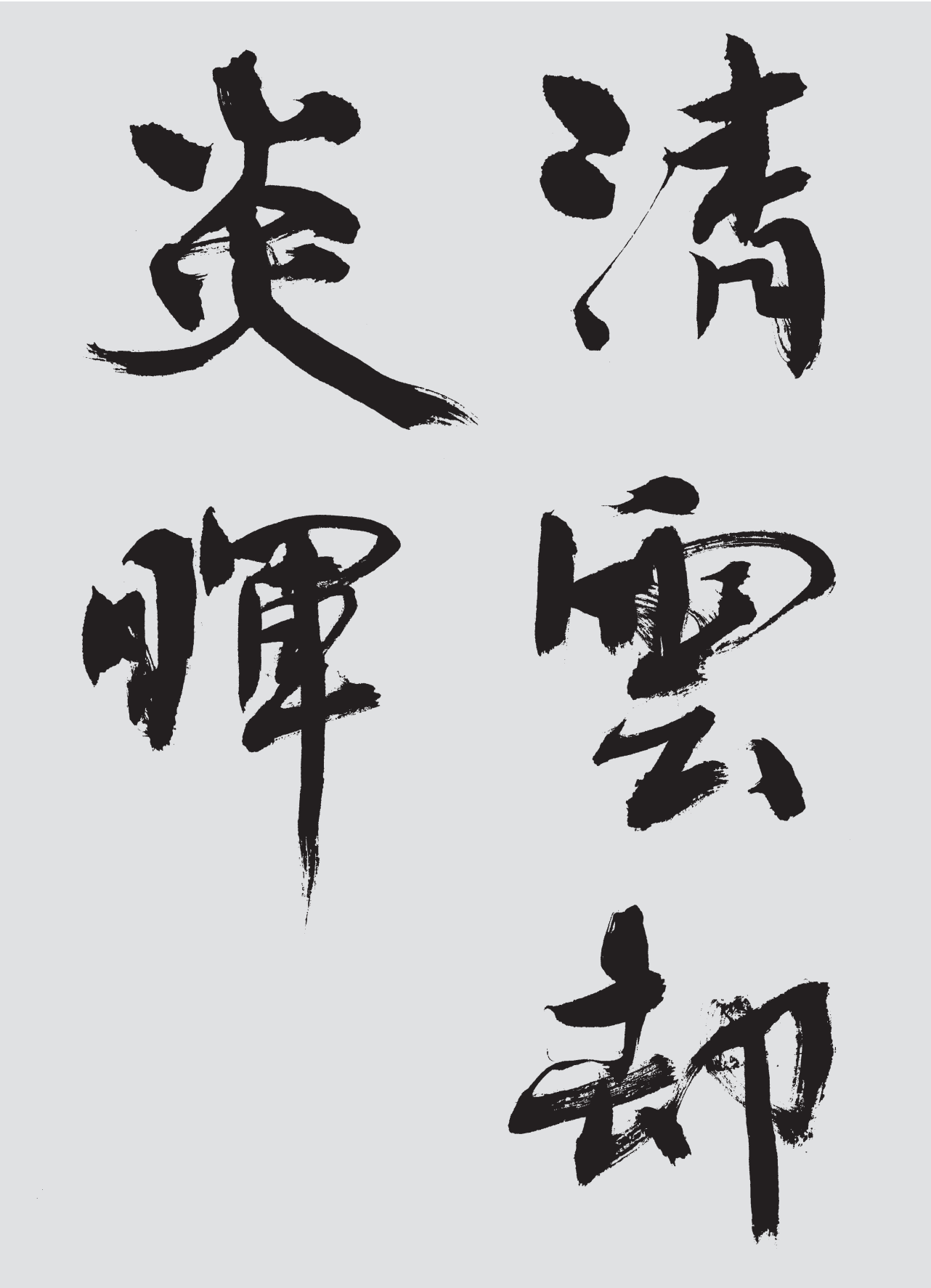


幽居翠微ゆうきょすいびに近ちかし

成瀬映山先生

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。



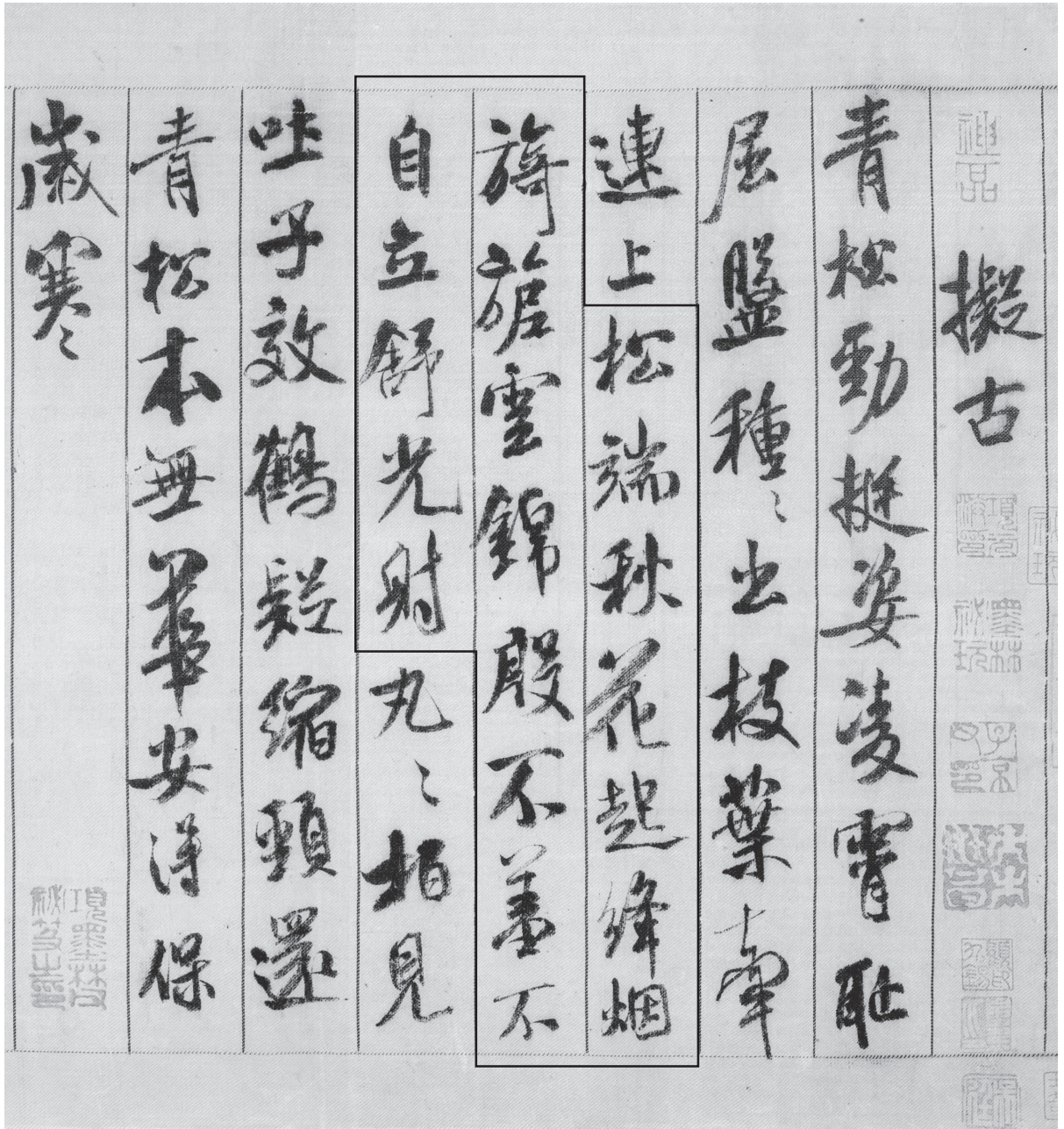
清雲炎暉を却く

高 木 聖 雨 先生

条幅規定

A部 (準五段以上)

絳
旖
錦
羞



『蜀素帖』 米芾 (宋)

擬古

青松勁挺姿 凌霄恥屈盤
 種種出枝葉 牽連上松端
 秋花起絳烟 旖旎雲錦殷
 不羞不自立 舒光射丸丸
 柏見吐子效 鶴疑縮頸還
 青松本無華 安得保歲寒

擬古

青松勁挺の姿
 凌霄屈盤を恥づ

種々に枝葉を出だし
 牽連して松端に上る
 秋花絳烟より起こり

旖旎として雲錦殷なり
 羞せず自立せざるを

光を舒べて射て丸々たり
 柏は吐子の效を見

鶴は疑いて頸を縮めて還る
 青松本と華無し

安んぞ歳寒を保つを得んや

【今月の課題】

「松端秋花起絳烟旖旎雲
 錦殷不羞不自立舒光射」
 (20字)

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

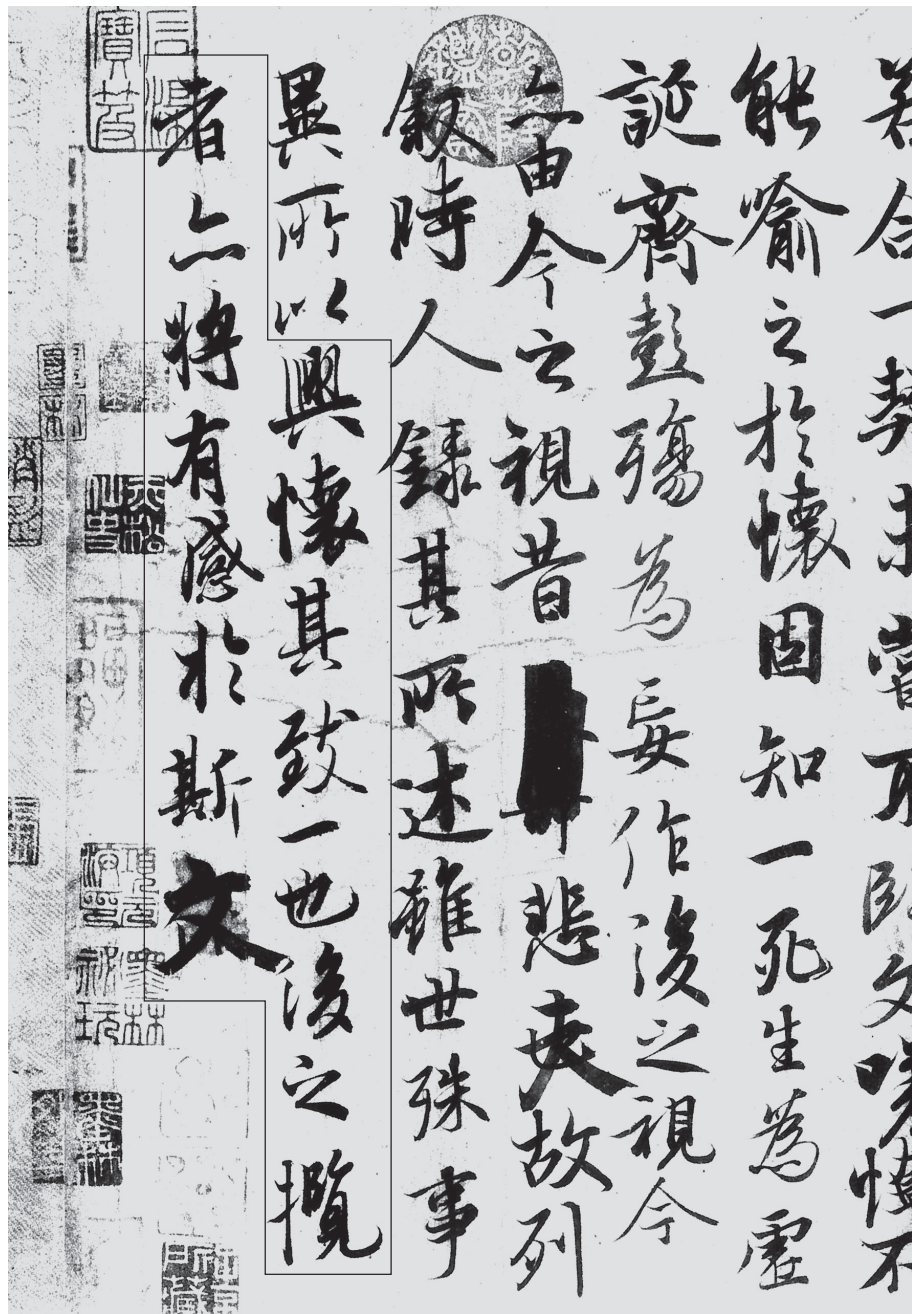
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(7月10日締切)

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』らんていしじょ
王羲之おうぎし（東晋）



興致攬者將有文

能喻之於懷。固知一死生為虛誕。齊彭殤為妄作。後之視今。亦由今之視昔。悲夫。故列敘時人。錄其所述。雖世殊事異。所以興懷。其致一也。後之攬者。亦將有感於斯文。

これを懐に喻す能はず。固より死生を
一にするは虚誕たり、彭殤を齊
しくするは妄作たるを知る。後の
今を視るも、亦た由お今の昔を視る
がごとし。悲しいかな。故に時人を
列叙し、其の述ぶる所を録し、世
殊なり事異なると雖も、懐を興す
所以は、其の致は一なり。後の攬
者、亦た將に斯の文に感ずる有ら
んとす。

【今月の課題】

「興懷其致一也後之攬者
亦將有感於斯文」

（17字）

【この課題を同月の条幅随意には出品出来ません】

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（7月10日締切）

半紙規定 (二)

半紙規定 (一)

曹全碑 (漢・作者不詳)



令蜀郡西部

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)

夏陽令・蜀郡西部

不徒聞於往



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔二級以下〕楷書

徒らに往昔に聞くのみならず

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
(7月10日締切)

条幅参考手本

雨過崖水響石梁峽山澗晴
天挂一虹溪斷雲不斷
南嶂書

渡邊南嶂先生

雨過崖水響 石梁峽山澗 晴天挂一虹 溪斷雲不斷
雨過ぎて崖水響き 石梁山澗に曇たり 晴天一虹挂かり 溪断えて雲断えず

森 亜希子先生

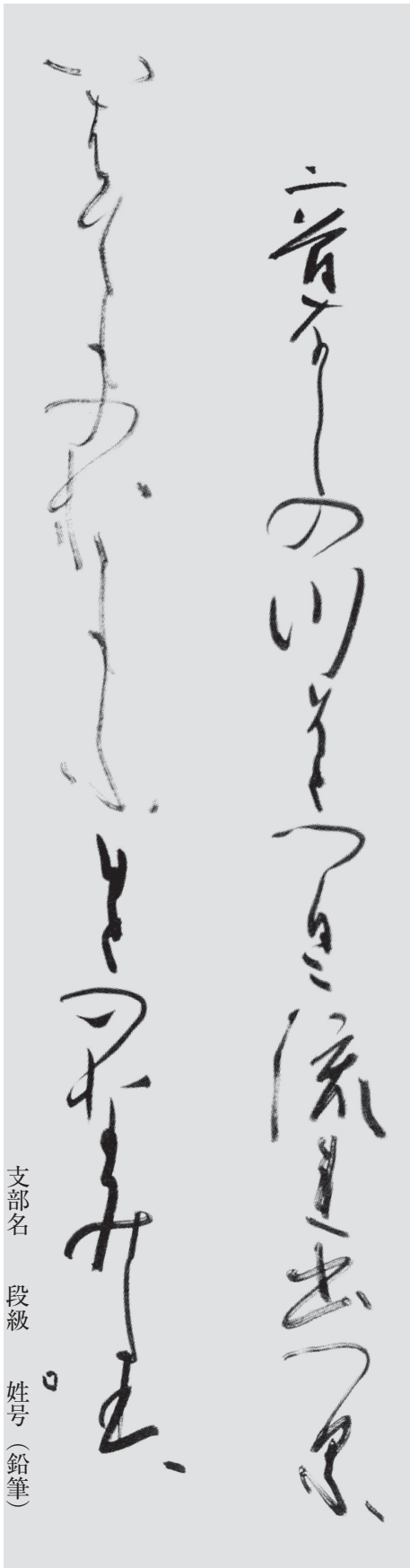
石苔應可踐 叢枝幸易攀 青溪歸路直 乘月夜歌還
石苔心に踐む可く 叢枝幸ひに攀ぢ易し 青溪歸路直く 月に乘じて夜歌ひて還る

石苔應可踐 叢枝幸易攀 青溪歸路直 乘月夜歌還
石苔心に踐む可く 叢枝幸ひに攀ぢ易し 青溪歸路直く 月に乘じて夜歌ひて還る

条幅かな

条幅参考手本

音なしの川ぞとつひに流れ出づるいはでもの思ふ人の涙は (清原元輔)
おと かななしの 川 ぞと つひに ながれ 出づる いは でもの おもふ 人の なみだ
奈 曾 日二 連 累 者 於も 日と なみ多 盤



支部名 段級 姓号 (鉛筆)

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

浮 乗 清 郷 先 生

(7月10日締切)

二句三年得一吟雙淚流
 知音如不賞 歸臥故山秋
 音如不賞 歸臥故山秋
碧柳

鰐 渕 碧 桃 先 生

二句三年得一吟雙淚流 知音如不賞 歸臥故山秋
 二句三年に得たり 一たび吟ずれば雙淚流る 知音如し賞せざれば 帰り臥せん故山の秋に

半紙かな（1級以下）

木洩れ日ものあびればとどまると蜥蜴とかなか（後藤夜半）

支部名
級
姓
号
（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

木洩れ日
のあ
れば
とど
まる
蜥
蜴
かな

木洩れ日

小林素水先生

山やまよりも深ふかきところを尋たづねれば我わが心こころにぞ人ひとはいいるべきべき（藤原齊信）

※ちらし文字変換は自由

支部名
段
姓
号
（鉛筆）

山
より
も
深
き
と
こ
ろ
を
尋
ね
れ
ば
我
が
心
に
ぞ
人
は
い
る
べ
き

山
物
心

浮乗清郷先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（7月10日締切）

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

書の上達には、不断の努力が大切。
一日に多く習う。五日も十日も休
んで駄目です。二十分程度でも
毎日筆をとることが肝要です。
支部名 段級 姓号

朝 平 霞 山 先 生

(7月10日締切)

細 字

明滅螻螂振斧蟻列
 明滅螻螂振斧蟻列
 明滅螻螂振斧蟻列
 明滅螻螂振斧蟻列

支 部

段 級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。

初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

振螻

斧螂

かまきり。

斧を振り上げる。

蟻

列

蟻の列るさま。

硬筆（1級以下）

2行、楷書

現代の若者を中心に動画コンテンツ
 の倍速視聴が広がっている。
 支部名 級 姓 号

齊藤 翡翠 流先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…変（変）えながら…語る。同じ…違う表情を…。

紫陽花が色を変えながら、季節
 の深まりを語る。同じ花でも違う
 表情を見せる不思議。
 支部名 級 姓 号

青柳 江雲 先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

（7月10日締切）

中2用

支 部 名		渡 邊 南 嶂 先 生
段 級		
名		
前		

中3用

支 部 名		大 越 三 宗 先 生
段 級		
名		
前		

小6用

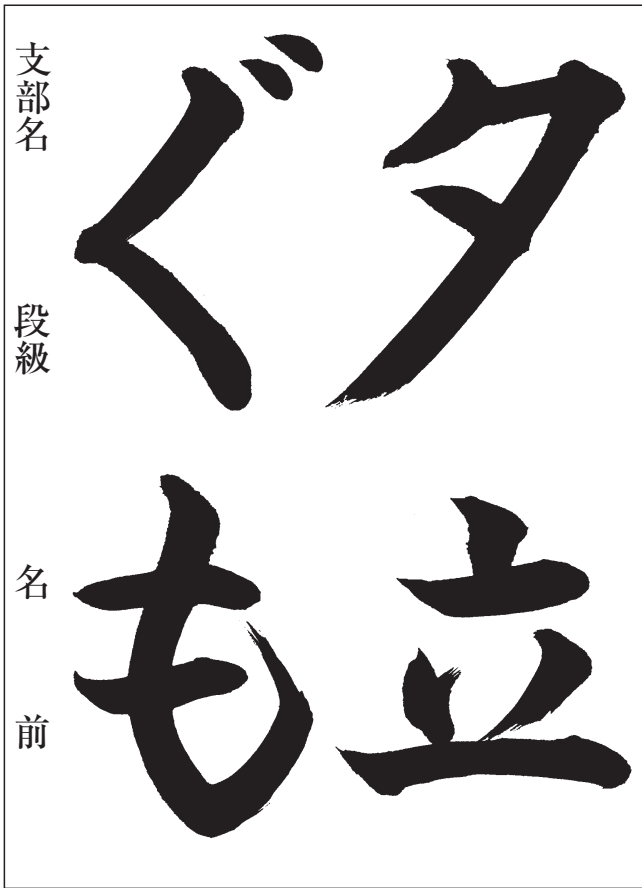
支 部 名		渡 邊 南 嶂 先 生
段 級		
名		
前		

中1用

支 部 名		渡 邊 南 嶂 先 生
段 級		
名		
前		

(7月10日締切)

小4用



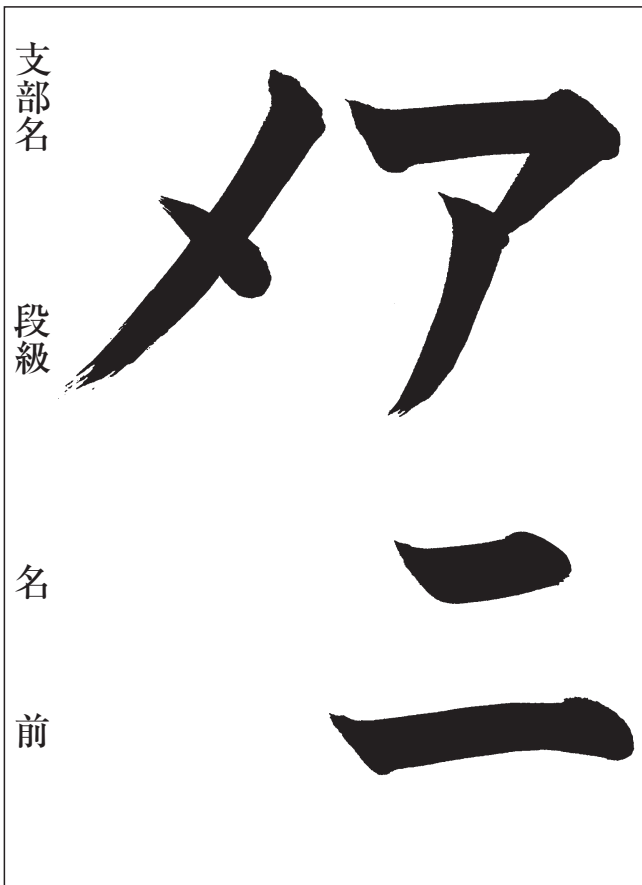
大越三宗先生

小5用



大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

(7月10日締切)

中1

電車の窓から、水平線に美しい夕焼けを見た。

中1~中3

中2

努力なしに最大の効果を生み出すことは無理。

青柳江

中3

白馬の残雪や雷鳥は、絵葉書を思わせます。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

やま

鈴木蕙先生

小1・幼年

あまのこぼし、おりひめ、

小1~小3

小2

でげん気にあそぼう。天気の良い日は、そと

鈴木蕙

小3

を朝おきて、毎日体そう。朝おきて、毎日体そう

翠先生

小4

物を生かすことは、物を大切にすることは、だ。

小4~小6

小5

花の大きな役目は、種を作ることです。

田邊翠

小6

海底では、火山の活動や地かくの変動がある。

鶴先生

(7月10日締切)

小学部小筆課題

支部名
段級
名
前

天の川
七夕祭り

主幹 菅野翠濤

中学部かな課題

支部名
段級
名
前

夏山や
雲わりの石よもた
はる

船久保 棠苑先生

※半紙半分に書いて下さい。(7月10日締切) ※半紙半分に書いて下さい。

8月10日締切課題予告

A部条幅規定 丸丸柏見吐子效鶴疑縮頸還青松本無華安得保

B部条幅規定 永和九年歳在癸丑暮春之初會于會稽山陰

かな条幅規定 み山出てまだ里馴れぬ郭公旅の空なる音をや鳴くらん(修理大夫顕季)

半紙規定(初段以上) 都尉祖父鳳 半紙規定(一級以下) 昔以祥爲懼

半紙かな(初段以上) 岩たたく谷の水のみおとずれて夏に知られぬみ山べの里(前参議教長)

半紙かな(一級以下) 雲海や鷹のまひるる嶺ひとつ(水原秋桜子)

実用文 古典を初期の段階で学んでおくべきものとして、楷書は九成宮醴泉銘、行書は蘭亭叙、草書は書譜、隷書は曹全碑などが挙げられる。

一般硬筆(初段以上) 朝顔が開きはじめた窓辺に季節の気配が漂う。目覚めの中に花がある日常は特別だ。

一般硬筆(一級以下) 幸福の便りというものは、待っている時には、決してこないものだ。

8月10日締切学生課題予告

中三毛筆 眼下の雲海 中三硬筆 夏は湿度が高く、蒸し暑く、過ごしにくい。

中二毛筆 寄せる大波 中二硬筆 青い空に白い雲、夏は海の恋しい季節だ。

中一毛筆 谷川水の音 中一硬筆 軽い運動で汗をかくのが、最高の健康法だ。

小六毛筆 空の銀河 小六硬筆 夏休みに、両親といっしょに富士登山をする。

小五毛筆 広い世界 小五硬筆 さあ夏だ。暑さに負けず、海で泳ぎます。

小四毛筆 古い文字 小四硬筆 つゆが明け、太陽とともに夏がやってくる。

小三毛筆 ミルク色 小三硬筆 夏には、家ぞくでりょ行に出かけます。

小二毛筆 カメラ 小二硬筆 なつ休み中に、ありのかんさつをしたい。

小一毛筆 そら 小一・幼年硬筆 なつやすみ、えにつき、はなび、うみ。

中学部かな 岩の間に 砂すこし ありて清水わく

小学部小筆 海への風 ながれ星